

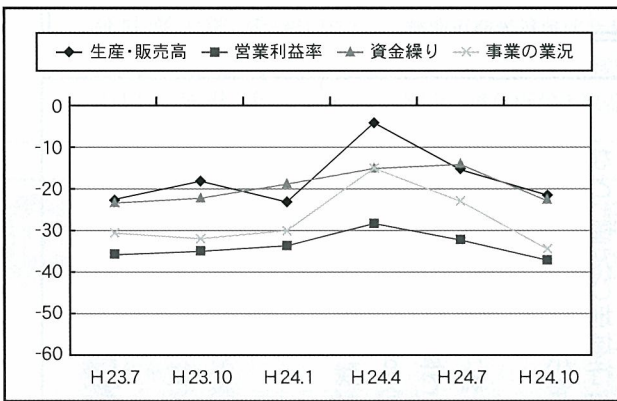
～現状・先行き共にマイナス～

【全産業D I 値】(表1・表2)

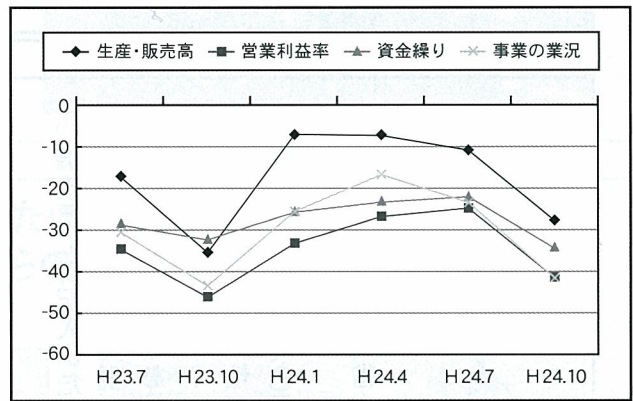
山形県全体のD I 値(※)の前年同月比推移をみると、生産・販売高、営業利益、資金繰り、事業の業況の全ての項目で下方傾向となり、厳しさが増していることがうかがえる。生産・販売高(H24.7調査▲16.0→今回調査▲21.0)、営業利益率(▲32.3→▲37.2)、資金繰り(▲14.8→▲21.5)、事業の業況(▲22.7→▲34.2)

3ヶ月先見通しD I 値(表2)においても、生産・販売高、営業利益、資金繰り、事業の業況の全て項目で下方傾向となり、先行きについてさらに慎重な見方となっている。生産・販売高(H24.7調査▲11.1→今回調査▲29.7)、営業利益率(▲24.6→▲40.8)、資金繰り(▲22.9→▲33.6)、事業の業況(▲23.5→▲40.9)

【表1 - 県計前年同月比DI値の推移】



【表2 - 3ヶ月先見通しDI値の推移】



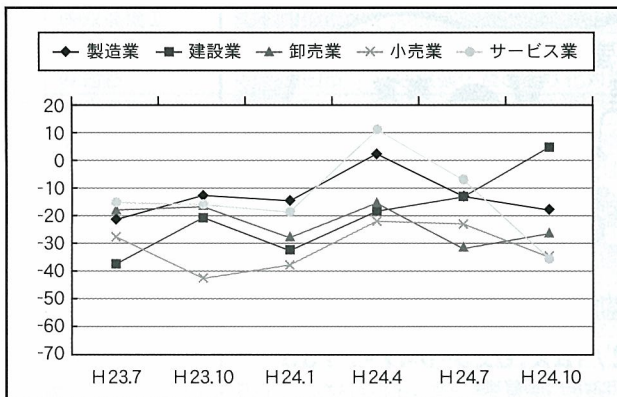
【産業別D I 値】(表3・表4)

生産・販売高の前年同月比D I 値を業種別の推移でみると、建設業と卸売業が上方傾向を示したが、製造業、小売業、サービス業では下方傾向を示している。(製造業:H24.7調査▲12.8→今回調査▲18.9、建設業▲13.7→4.3、卸売業▲31.5→▲26.5、小売業▲23.2→▲33.3、サービス業▲6.9→▲34.9)

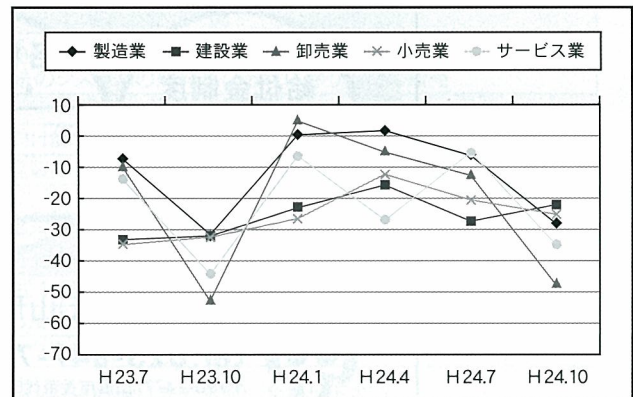
3ヶ月見通しD I 値については、建設業は上方傾向を示したが、製造業、卸売業、小売業、サービス業で下方傾向を示しており、慎重な見方をしている企業が多く、特に卸売業では先行き懸念が強い結果となっている。(製造業:▲4.9→▲29.1、建設業▲27.3→▲21.7、卸売業▲12.8→▲47.0、小売業▲20.3→▲24.9、サービス業▲4.4→▲34.1)

エコカー補助金の終了や、増税への懸念、長引く超円高、海外経済の低迷、隣国との関係悪化など経済活動を委縮させる要因が多く、先行き心理にマイナス影響を与えていると思われる。

【表3 - 業種別生産・販売高前年比DI値の推移】



【表4 - 業種別生産・販売高3ヶ月先見通しDI値の推移】



(※1) D I 値:「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた指数